

「自ら学び、自分の可能性を伸ばそうとする子どもをめざして」
～小規模複式校のよさを生かした読解力を高める指導を通して～

江津市立跡市小学校

〔代表〕校長 安部 純 生

1 研究の構想

(1)主題設定の理由

平成17年度に本校独自で行った学力検査における算数科の結果では、どの学年においてもほとんどの観点で数値が全国を下回っていた。本校は複式学級であり、算数科では指導者が二学年を同時に指導するいわゆる「わたり」で授業を行っているが、その指導法がうまく機能せず、十分な指導ができていないこと、反復練習が不十分であり、学習内容定着していないこと等が原因であると考えられる。算数科では、わたりの授業をもっと工夫し、児童の自主的な学びを引き出すと共に、基礎基本となる技能を確実に身につけさせる必要がある。また、できる喜びを味わうことで、関心意欲態度も高まっていくはずである。

文部科学省は、H17.12月に「読解力向上プログラム」を策定し、3つの重点目標を掲げてPISA型「読解力」育成のための学校での取り組みを推し進めている。本校においても、児童の実態から読解力が不足していると指導者が感じる場面が多い。児童の読解力を育成するためには、全教育活動を通して機会をとらえて指導していくことや今見直されているふるさと教育を基盤としながら、国語科だけでなく、各教科や総合的な学習の時間等を通して重点的に指導していく必要がある。

さらに、学力の育成と正しい生活習慣とは密接に関わっており、本校児童の生活習慣の実態は、決してよい傾向であると言えるものではない。生活習慣に関わるアンケートの結果によれば、就寝時間が深夜型に近づいていたり、テレビなどの視

聴時間が多いことなどが問題として挙げられる。児童の自覚と学習意欲を大切にしながら、家庭と協力して正しい生活習慣を身につけさせることが、学力の向上の一助となると考えられる。

(2)研究の目標

子どもの自らの目標の達成と自らの知識と可能性の発達を目指し、学ぶ意欲と基礎基本を大切にしながら読解力を高める授業の在り方について、個に応じた達成目標を明確にししながら、確かな学力を定着させるための具体的な手立てを組み入れた教育実践を行い、その手立ての効果を明らかにする。

(3)研究の視点

〈視点1〉読解力を伸ばすための複式のよさを生かした個に応じた指導の方法にはどのようなものがあるか。

〈視点2〉個々の課題に向かって取り組む学力の定着を図る指導方法にはどのようなものがあるか。

〈視点3〉学びに集中できる環境作りとして、望ましい生活習慣の形成を図るにはどのような手立てがあるのか。

(4)研究の内容

視点1	<ul style="list-style-type: none">個人データファイルの作成による個別の課題把握と適切な指導授業改善による数学的な考え方・表現力の育成ガイド学習の導入による主体的な学びの促進学習の見通しと評価による意欲の向上
視点2	<ul style="list-style-type: none">集合学習の充実による意欲の向上と個に応じた指導の充実学びタイムによる基礎基本の一層の定着読書活動の充実による読解力向上
視点3	<ul style="list-style-type: none">正しい生活習慣に関する知識の伝達と情報交換家庭の時間割の作成と実施による生活リズムの向上

(5) 評価計画・研究成果の検証

- ①学力調査、学習適応性検査の結果の数値化による比較
- ②学校保健委員会によるライフスタイルアンケート結果の数値化による比較
- ③各単元のテスト結果の数値化による比較
- ④児童の自己評価(レーダーチャート等)、教師の見取りによる評価 等

2 研究の実際

(1) 読解力を伸ばすための複式のよさを生かした個に応じた指導の方法について

①個人データファイルの作成

これまで行ってきた学力調査および学習適応性検査を学年・個人ごとにまとめ、傾向と対策を考える資料とした。さらに、ライフスタイルアンケートの結果を合わせ、個の学習状況と適応性、生活習慣の相関関係を分析してみた。

〔表1〕

学力調査の結果より、全体としては関心・意欲が低下の傾向にあったが、個としてみた場合、向上している児童も多いことがわかった。普段の授業態度などとも合わせて考えると、関心・意欲を高める授業の工夫の効果が少しずつ表れているのではないと思われる。

算数科においては、数学的な考え方がだいたい満足できる程度までに至っていない。この春からの取り組みなので、急には結果として表れにくいと考えられるが、今後も読解力に視点を置いた授業を通して伸ばしていきたい。

学習適応性検査からは、全体的に偏差値および適応性の値が下がっていることがはっきりした。児童一人一人の長所や努力点が示してあるので、個に応じた指導を行うことで力をつけていきたいと考える。共通して言えることは、学習の技術の不足と家庭学習の時間不足などによる学習内容の定着の低さではないだろうか。

生活の様子と合わせると、遅くまでテレビを見たり、ゲームをしたりすることで、よりよい睡眠が取れていないことがわかる。さらに、起床時間

が遅いことや朝食の内容が偏ったりしていることも、学習意欲の低下などにも影響しているのではないかと考えられる。今後も一層学校での個に応じた学習指導に合わせ、児童や保護者の意識を高める働きかけを行うなどして、各家庭と連携しながらよりよい生活習慣が身につくようにしていきたい。

〔表1〕 抽出児の傾向

		A 児	
TK式 (学力調査)	国語(関心・意欲・知識・理解) 算数(関心・意欲・数学的な考え方)	国語・算数とも関心・意欲が満足できる数値であり、また、数学的な考え方ができるようになってきた。 言語事項や数量関係において復習が必要である。	
AAI (学習適応性検査)	現状・問題点と対策	<p>【現・問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適応性は普通の程度であるが、学習に対する要求水準が高く、自分の力をより高めようという意欲がある。 ・本の読み方、ノートのとりの技術が未熟である。 <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に必要な技術を指導するとともに、計画的に学習する習慣をつけさせ、意欲を持たせる。 	
レポート ライフスタイルアンケート	朝ごはん テレビ・ゲーム 睡眠時間	<p>毎朝食べているが、主食のみ摂っており、内容が偏っている。</p> <p>前も今もテレビとゲームを合わせて3時間くらい使っている</p> <p>前も今も9時間くらいで十分取っているが、寝起きがすっきりしていない。</p>	

②ガイド学習を取り入れた主体的な学びの環境

づくりと読解力に視点を当てた授業の改善

ガイド学習が定着しつつあり、児童が主体的に学習を進める場面が多く見られるようになった。間接指導時には、ガイド役の児童が中心となって学習を進めたり、ドリル的な学習を自主的に行いながら指導者を待つなど、意欲面でも変容が見られ、ガイド学習の有効性がわかった。また、十分な個人思考の時間をとることで、一人一人の思考におけるつまづきを教師が見取ることができ、支援の方法について考える場となった。さらに、全体の前で自分の考えを表現させることで、自分の考え方や表現の仕方が不十分だと児童に気づかせたり、聞く側は友達の発表の一つ一つの言葉にこだわりながら聞くことで、積極的に質問したり、反対意見が言えるようになってきた。表現の仕方

では、大きな紙や黒板に図や文を使ってわかりやすく書いたり、具体物等を使って説明するように指導している。繰り返すことで、どのような図が説明するのに適しているかなど、児童が判断しながら表現方法を学んでいる。

③見通しと評価

主体的な学びを促すための手立ての一つとして、単元および毎時間における学習内容の見通しを持たせることにした。単元導入にあたっては、オリエンテーションの時間をとり、その単元で必要となる基礎的な力がついているかを確かめたり、単元全体のねらいや概要を話したりした。単元全体の目標シートを作り、毎時間そのカードに振り返りを記入するなどの活動を行わせることで、単元を通して自分がどのように成長していったかがわかるようにしたり、友達の考え方のよいところなどを記録することができた。また、板書に学習の流れを指導者が事前に書くことで、間接指導時には児童の主体的な学びが見られるようになった。読解力を評価するために作成している評価指標は、授業の中で使い始めたばかりであるが、単元を通して全項目を自己評価させることを重ね、機会をとらえて記録を児童に返すことで個の成長ぶりを自覚させ、学習意欲の向上に役立てていきたい。

【授業実践例 (3, 4年)】

「一人一人が考える時間と表現する場を設けた取り組み」		
単元名	3年「3けたの数の計算を考えよう」 (本時3/8)	4年「変わり方を見やすく表そう」 (本時3/8)
目標	筆算形式による3位数の加減計算の仕方について理解し、それをを用いる能力を高める。	伴って変わる2つの数量の変化のようすを折れ線グラフに表したり、その特徴を読み取ったりする能力を高める。
意欲と数学的な考え方を養う学習活動の設定	レストランの接客係となり、会計伝票に筆算を書き込み、意欲的に計算の仕方を考える。	1年の気温の変化を折れ線グラフに表し、東京とシドニーで比較して話し合う。
数学的な考え方や表現力の育成のための支援	・前時に既習の2けたの筆算を思い出させておくとともに、掲示しておく。 ・お金の模型を用意して、必要とする児童には具体物を操作しながら考えることができるようにする。 ・一人一人が考える時間をとり、発表用の用紙に書かせる。 ・一人一人に考えたことを	・前時でかいた東京のグラフからのよい読み取り方を紹介し、掲示しておく。 ・実際にグラフをかき、違いを体感させる。 ・一人一人が考える時間をとり、発表用の用紙に書かせる。 ・一人一人に考えたことを説明させる。

	説明させる。 ・自分で答え合わせができるようレジスターを準備し、進んで練習問題に取り組ませる。	
学習の見通しと評価	目標シートを提示して、単元を見通すオリエンテーションの時間をとるとともに、毎時間の振り返りを記入させる。	
成果と課題	・場の設定により意欲的に計算をしようという様子が見られた。 ・既習の2けたの筆算が定着しており、3けたも同様に考えることが容易にできた。 ・メニューの作り方を工夫すれば、もっと読解力を伸ばすよい教材となった。	・折れ線グラフに関心を持ち、意欲的にグラフをかこうとしていた。 ・グラフをかきながら、グラフの特徴をとらえることができた。 ・シドニーのグラフから「雪がふることはないなあ。」と読み取る児童がいてよかった。 ・東京とシドニーのグラフを一人一人比べると成長が見られる。

(2) 個々の課題に向かって取り組む学力の定着を図る指導方法について

①学力を定着させる学びタイム

一週間に1時間行っている学びタイムでは、心地よい緊張の中で学びに集中できるという理由から毎時間全校で行っている。また、活動内容の焦点化を図り、表現力を伸ばすために詩や劇の台本を音読したり、国語や算数の個のつまづきや伸びを支援するための学習時間とするなど、よりよい実施に向けて改善をしてきた。児童らはそれぞれ自らがその時間に行う課題を準備し、集中して意欲的に学習に取り組むことができ、いつもこの時間を待ち遠しく感じている。

②刺激を与え合う集合学習

協力校である近隣の有福温泉小学校と一緒にいる。様々な教科にわたって合同の授業を行うことで、それぞれの児童の持つよさを感じ、「すごく進んで発表している人が多くてびっくりした。」などと、小規模校には少ない刺激を与えてもらっている。また、時間的にはわずかであるが、TTによる授業を行うことで、個への決め細やかな対応も可能になっている。

③家庭学習の習慣化

家庭学習については、目標とする学年×15分を行っている児童が昨年同様少ない。学習内容や学習の仕方の指導を充実させるとともに、学習環境を整える必要があると感じた。そこで、朝食の

摂食や睡眠時間などの生活習慣と合わせ、家庭の時間割を家族と一緒に作成し、目標を立てて取り組ませている。「帰ったらすぐに宿題をするようになった。」「めりはりのある生活ができるようになった。」等という成果を保護者から聞けるようになった。

④読解力を伸ばす読書指導

読書を家庭学習の一部として毎日行うように指導したり、全校児童で読書ノートに取り組んだり、児童会で読書大会を計画するなど読書活動が積極的になるように働きかけている。しかし、読書が苦手な児童にとっては、まだ十分に親しむ活動になっていないのが現状である。一ヶ月に一度、移動図書で江津市図書館から一人5冊程度本を借りる時は、とても楽しそうに本を選んでいたりと、朝読書の時間などでは、集中して読書を行う姿が見られる。しかしながら、家庭では、本よりもテレビ・ゲームの方に興味を奪われ、楽しみながら読書を行う姿はあまり見られない。家庭との連携を図り、家族で本に親しむ時間を作る等の工夫が必要である。

(3) 学びに集中できる環境作りとして、望ましい生活習慣の形成を図ることについて

①学校保健委員会の取り組み

本年度は昨年度と同じアンケートを行い、比較しながら目標を定め、きちんとした生活リズムを確立するために、次のことに取り組むことにした。

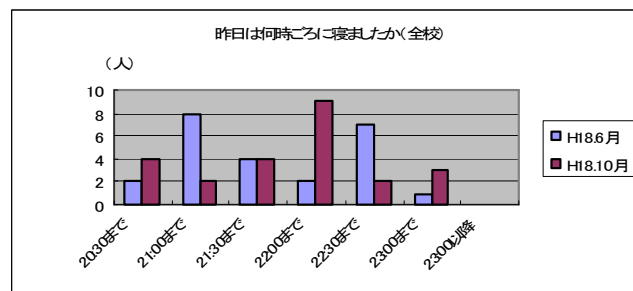
取り組み	内容
①夏休みの生活表（家庭の時間割）を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭のめあてを決める。（テレビなしデーをつくる、就寝時刻を決めるなど） ・児童自身のめあてを決める。（学習時間、お手伝い、ゲームの時間など） ・1日の生活時間表を作る。 ・親子で振り返る時間を持つ。
②2学期以降の普通日の生活表を作る。	同上
③アンケート調査を2・3学期にも行い、変容を見る。	分析結果を児童・保護者に伝える。

夏休みの生活表は、各家庭でそれぞれめあてを決め、取り組んだ。保護者の感想の中には、親子で話し合っただけで生活時間を決めたことで

親としての役割を改めて意識された方も多く見られた。10月には2度目のアンケートを行い、PTAの研修会にあわせて保護者に結果の報告と、きちんとした生活リズムの大切さを伝えた。現在、普通日の生活表を作成し、生活リズムの確立に取り組んでいるところである。

②ライフスタイルアンケートの結果から

朝食はきちんと採っているが、バランスの悪い家庭が半数程度ある。テレビの視聴時間は全体的に減っているが、3時間以上の児童が増えている。また、全体に少しずつ寝る時刻が遅くなっている分、起きる時刻もやや遅くなっている。起床時刻と食事の内容に関係があるかと考えたが、早い遅いによって食べたものの種類に差は見られなかった。この調査を通して各家庭の姿勢を垣間見ることができたので、今後も働きかけていきたい。



3 今後の課題と研究の方向

- (1) 評価指標の活用による更なる意欲の向上
- (2) 算数科における読解力に視点を当てた教材開発およびガイド学習の充実
- (3) 家庭学習や学びタイムなどを中心とした学習の基礎・基本の指導の充実
- (4) 効果的な地域、保護者への情報伝達による生活習慣向上に関する意識改革と連携

執筆責任者 佐々木 努
 所属校 江津市立跡市小学校
 〒695-0152 江津市跡市町 632
 TEL0855-56-2246